

L'ÎLE SAINT LOUIS

PAROLES : LEO FERRE ET F.CLAUDE

MUSIQUE : LEO FERRE

L'île Saint Louis en ayant marre
D'être à côté de la Cité
Un jour a rompu ses amarres
Elle avait soif de liberté.
Avec ses joies, avec ses peines
Qui s'en allaient au fil de l'eau
On la vit descendre la Seine
Ell'se prenait pour un bateau.

Quand on est une île
On reste tranquille
Au cœur de la ville
C'est ce que l'on dit,
Mais un jour arrive
On quitte la rive
En douce on s'esquive
Pour voir du pays.

De la Mer Noire à la Mer Rouge,
Des îles blanches aux îles d'or,
Vers l'horizon où rien ne bouge,
Point n'a trouvé l'île au trésor.
Mais tout au bout de son voyage
Dan un endroit peu fréquenté
On lui raconta le naufrage
L'île au trésor s'était noyée.

Quand on est une île
On vogue tranquille
Trop loin de la ville
Malgré c'que l'on dit,
Mais un jour arrive
Où l'âme en dérive,
On songe à la rive
Du bon vieux Paris.

L'île Saint Lous a de la peine
Du pôle Sud au pole Nord
L'océan ne vaut pas la Seine
Le large ne vaut pas le port
Si l'on a trop de vague à l'âme
Mourir un peu n'est pas partir
Quand on est une île à Notre Dame
On prend le temps de réfléchir.

Quand on est une île
On vogue tranquille
Au cœur de la ville

サン-ルイ島

対訳 : Junko Higasa(2010.10.15 Fri.)

サン-ルイ島はうんざりしていた
シテ島の傍らにすることに
ある日 その係留用ロープ(関係)を断ち切った
彼女は自由を渴望していた。
その喜びと共に、その苦しみと共に
水の流れに身を任せて進んでいく彼女
人々はセーヌ河を下って行くのを見かけた
彼女は自分を船だと思い込んでいた。

島というものは
静かにとどまっているものだ
都市の中心に
人々はそのように思っていた、
けれど ある日 事は起こった
彼女は河岸を立ち去り
何食わぬ顔でこっそりと逃げ出した
旅をするために。

黒海から紅海まで、
何も無い(白い)島々から豊かな(黄金の)島々まで、
じっとしている水平線へ向かって、
(自分にふさわしい)宝島は見つけられなかった。
けれどまさに その旅の終わりに
めったに起こらない海域で
誰かが彼女に難破を語った
宝島は沈んだ。

島というものは
静かに漂うものだ
都市から遠く離れすぎる
そのように人々が思っていたにも関わらず、
けれど ある日 事は起こった
どこへ魂は流されるのか、
彼女は河岸のことを思い浮かべている
古き良きパリの。

サン-ルイ島にはつらい
南極から北極まで
大海はセーヌ河に匹敵しない
外海は港に匹敵しない
彼女がとても物悲しい心地がするのは
死に瀕するのは出発ではないということ
ノートル・ダムのひとつの島であるから
彼女は考える時間を持てる。

島というものは
静かに漂っているものだ
都市の中心に

Moi je vous le dis
Pour les îles sages
Point de grands voyages
Les livres d'images
Se font à Paris.

私はあなた方に言う
賢明な島々のための
大げさな旅は全くない
絵本というもの
それはパリで作られている。

[日本語的並び替え]

サン・ルイ島は シテ島の傍らにすることにうんざりしていた。
彼女は自由を渴望していたので ある日 その関係を断ち切った。
その喜びと共に、その苦しみと共に 彼女は水の流れに身を任せて進んでゆく。
自分を船だと思い込んでいる彼女がセーヌ河を下っていくのを 人々は見かけた。

島というものは 都市の中心に静かにとどまっているものだ
人々はそのように思っていたのに
ある日 事は起こった。
彼女は河岸を立ち去り
旅をするために 何食わぬ顔でこっそりと逃げ出した。

黒海から紅海まで
何もない島々から豊かな島々まで
じっと動かない水平線へ向かったが
自分にふさわしい宝島は見つからなかった。
けれど まさにその旅の終わりに
めったに起こらない海域で難破があったと 誰かが彼女に語った。
宝島が沈んだのだ。

島というものは 静かに漂っているものなのに、都市から遠く離れすぎる
そのように人々が思っていたにも関わらず
ある日 事は起こった。
どこへ魂は流されるのか
彼女は古き良きパリの河岸のことを思い浮かべている。

サン・ルイ島には 南極から北極まではつらい。
大海はセーヌに匹敵しないし 外海は港に匹敵しない。
彼女がとても物悲しい心地がするのは
死に瀕するのは出発ではないということ
ノートル・ダムのひとつの島であるから
彼女は考える時間を持てる。

島というものは 都市の中心に静かに漂っているものだ。
私は あなた方に言う。
賢明な島々のために 大げさな旅などは全くない。
絵本というもの
それはパリで作られているのだ。

現状に満足がいなくて、世界に羽ばたこうと試みるが
名声は思いもかけないところで落ちてしまう。
この場所にいるから、今の自分と、その先の発展がある。
偉ぶった旅へなど出ないで、自分の足元をよく見つめることだ。
真実はそこで見つかる。男女の仲も同じ。理想を追い求めるより
自分にふさわしい相手を見つけることだ。